農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

由布市長 相馬 尊重

市町村名 (市町村コード)	大分県由布市 (442135)
地域名 (地域内農業集落名)	並柳 (並柳)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年2月19日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

地域内では水稲を中心とした作付けが行われている。地域が抱える課題として、農業者の高齢化、担い手不足等を要因とした遊休農地の増加、異常気象による影響、イノシシ・シカの被害が挙げられる。後継者が不足していくなか、農地の維持管理は年々難しくなっている。
主な作物:水稲

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域資源を活かした特産品の米・椎茸・ブドウの生産や加工販売、イベントを通じた体験農業や農家民泊などで農業所得の向上に繋がりたいと考えている。その他、新たな作物の栽培にも取り組みたいと考えている。高齢化や人員不足を理由に意欲がなくなっている傾向があるので、意識改革についても取組が必要である。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	186.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	186.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・当面は現状維持を図りながら、耕作放棄地とならないよう農地の保全・管理に努める。 ・中山間組織を中心に集約化することを目標とする。 ・地域で離農者が発生した場合等、有効活用を図りながら中山間組織への集約を推進する。
(2)農地中間管理機構の活用方針
制度の普及・啓蒙を行う。
(3)基盤整備事業への取組方針
今後の予定なし。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
特になし。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
特になし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ①鳥獣害防止策の設置や点検等の維持管理。
⑦中山間組織による野焼きや草刈等の保安全管理。